

(国語)

**「正確に理解し適切に表現する子どもの育成
～主体的・対話的で深い学びの視点を大切にした文学的文章の指導～」**

大阪市立阪南小学校 学力向上部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童の実態として、経年調査の結果分析から、ある程度の学力が身に付いていると考えられる。しかし、学力の個人差が大きく、二極化の傾向が見られる。このような学力差が生じる原因の一つとして、読解力の差が考えられる。また、全体的に「読むこと」の領域に対して「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域での正答率が少し低く課題が見られる。

そこで、読解力を向上させるために、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力を身につけ、国語を使って内容や事柄を適切に表現することが必要と考え、「読み取ったことを活かしながら書く力・話す力などを伸ばすこと」を目標に掲げることとした。

2. 研究の趣旨

昨年度は、国語科で説明的文章を中心にどのように指導すれば児童に力を付けることができるかを研究した。その際、主体的・対話的で深い学びの視点を大切にしながら、児童自らが考え友だちと共に深める授業となるように研究を進めた。その結果、指導者がどのようなポイントで教材分析を行うと良いのか、どのような手立てと工夫をすると児童にとって「主体的・対話的で深い学び」となり、読解力が高まるのかが明らかになった。しかし、深い学びにつながる対話となるためにどうしていけばよいのかという点について、特に課題が残った。そこで今年度は、さらに文学的文章を中心とした教材で進めていきながら、「教材分析の方法」「主体的な学びとなる手立て」「深い学びへつながる環境設定」などを視点として研究を深めていくことにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

(1) 身に付けたい力が明確化された教材分析

- 学年の系統を整理しながら、身に付けたい力の明確化
- 教材文分析会をもつ(分析シートを活用)
 - ⇒児童に気づかせたいことを整理する。
 - ①内容を理解する。
 - ②書き手の表現の工夫に気づく

(2) 指導の手立ての工夫

- 主体的に取り組むための工夫
 - 児童が興味・関心をもつことができる発問や資料の提示を行う。
- 正確に理解し、読み取ったことを基に適切に表現するための工夫
 - ・発問の工夫をする。
 - ・一人で考える場を設ける。
 - ・対話を通して、友だちと考えを深める場を設ける。
 - ・学んだことを活かす場として、言語活動を設定する。 など

(3) 環境の充実

- 話型を教室に掲示する。
- 火曜日と木曜日の朝の会に、読書活動を行う。
- 学級文庫、図書の貸し出し、図書館からの団体貸し出しを計画的に利用していく。
- 学習環境をつくる。
 - ・単元に関連する本を設置する。
 - ・児童の関心が広がる掲示をする。(新聞記事の切り抜きなど)
 - ・効果的な教室掲示を考える。
 - ・朝日小学生新聞 for デジタルを活用する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- みんなで一つの教材文について試行錯誤しながら分析したことで、教材について、授業者も参会者もお互いに教材について共通理解を図ることができた。その結果、指導案検討会や研究授業の参観、研究協議会において、同じ視点で授業を考えることができ、よりよい実践になるよう研究を深めることができた。
- 主体的に読み取るための指導の手立てとして、批判的な読みをさせることが「正確に理解し、読み取る」ことにつながったと考えられる。
- 主発問を考える中で、評価についても指導案検討会や研究協議会で議論した。「どのような考えをもたせたいのか」「実際に子どもはどんなことを書くだろうか」等、例を挙げながら考えていくことで、発問の仕方も精選していくことができた。
- 自分の考えをもった上で、ペアやグループでの交流をもつようにした。一人では考えることが難しい子どもや自分の考えに自信がもてなかった子どもは、自分の考えをもてたり自信につながったりした。一人一人の考えが着実に交流できるようになってきた。
- 話型を掲示することで、自分の意見をはっきりと伝えられる子どもが増えた。また、クラス全体の話し合いでは、発表者の発言を受けて、聞き手も友だちの意見に対してハンドサイン等を使って自分の意見を表明することで、聞き手という立場だけでなく、話し合いの当事者となり、主体的な取り組みにつながった。
- 単元学習で行っている学習計画や、話し合ってたったことなど、さまざまな情報を教室の壁面に掲示した。見通しをもって学習を進めたり、既習の内容を振り返ったりすることがスムーズに行え、有効であった。また、並行読書の図書を身近なスペースに設置したり、言語活動で行う予定の作品見本を掲示したりしておくなど、学習環境を整えることでも子どもの学習への関心が高まることにつながった。

(2) 今後の課題

- 子どもが主体的に考えたい発問となっていることに加え、考える視点が明確になっていることが不可欠であるとわかった。今後もさらに発問を吟味していく。
- 自分の考えを伝えることはできても、そこから深まったり広がったりすることが難しい場面もまだ見られた。そこで、学年に応じて、どのようにすれば友だちの考えと比べたり、つなげたりしながら対話的で深い学びにつながるのかを探っていく。